

鳥 羽 離 宮 跡

2007 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

鳥羽離宮跡

2007年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかっていく事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび集合住宅の新築工事に伴う鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をいただきました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げる次第です。

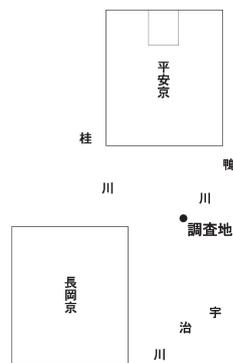
平成 19 年 9 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- | | |
|-----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 鳥羽離宮跡 (152 次調査)・鳥羽遺跡 |
| 2 調査所在地 | 京都市伏見区竹田西内畑町 19 番地・34 番地 |
| 3 委 託 者 | 株式会社 三井田商事 代表取締役 井上智之 |
| 4 調査期間 | 2007 年 7 月 11 日～2007 年 8 月 3 日 |
| 5 調査面積 | 138 m ² |
| 6 調査担当者 | 平田 泰 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図 (縮尺 1 : 2,500) 「城南宮」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系 VI (ただし、単位 (m) を省略した) |
| 9 使用標高 | T.P. : 東京湾平均海面高度 |
| 10 使用基準点 | 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点 (一級基準点) を使用した。 |
| 11 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修 『新版 標準土色帖』 に準じた。 |
| 12 遺構番号 | 調査区、遺構毎に番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 13 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 14 掲載写真 | 村井伸也・幸明綾子 |
| 15 遺物復元 | 村上 勉・出水みゆき |
| 16 自然遺物分析 | 竜子正彦 |
| 17 基準点測量 | 宮原健吾 |
| 18 本書作成 | 平田 泰 |
| 19 編集・調整 | 中村 敦・児玉光世・近藤章子・櫻井みどり・山口 眞 |



(調査地点図)

0 2 4km

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査の経緯	1
(2) 位置と環境	2
(3) 周辺の調査	3
2. 遺 構	5
(1) 基本層序	5
(2) 検出遺構	5
3. 遺 物	8
(1) 遺物の概要	8
(2) 出土遺物	8
4. ま と め	17

図 版 目 次

図版1	遺構	1	北調査区全景（西から）
		2	南調査区全景（西から）
図版2	遺構	1	北調査区土坑1（南東から）
		2	南調査区土坑1（北東から）
図版3	遺構	1	南調査区土坑2（北から）
		2	南調査区柱穴37（南から）
図版4	遺物		北調査区土坑1出土土器

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	周辺調査位置図（1：5,000）	3
図4	調査前全景（南西から）	4

図5	作業風景（北西から）	4
図6	基本層位図（1：40）	5
図7	北調査区平面図（1：100）	6
図8	北調査区土坑1実測図（1：20）	6
図9	南調査区平面図（1：100）	7
図10	北調査区暗茶褐色土・土器溜り出土土器実測図（1：4）	9
図11	北調査区土坑1出土土器実測図1（1：4）	9
図12	北調査区土坑1出土土器実測図2（1：4）	10
図13	北調査区土坑1出土土器実測図3（1：4）	11
図14	南調査区土坑1出土土器実測図（1：4）	12
図15	南調査区土坑2出土土器実測図（1：4）	12
図16	南調査区土坑3～10・東部畝溝出土土器実測図（1：4）	13
図17	南調査区柱穴内出土土器実測図（1：4）	14
図18	石製品実測図（1：2）	15
図19	石製品	15
図20	北調査区土坑1検出自然遺物	16

表 目 次

表1	遺構概要表	7
表2	北調査区土坑1検出自然遺物リスト	16
表3	遺物概要表	16
表4	掲載遺物一覧表	18

鳥羽離宮跡 152 次調査

1. 調査経過

(1) 調査の経過

調査地は京都市伏見区西内畑町 19・34 番地で、名神高速道路の約 100 m 南側、新油小路通に面した西側に位置している。敷地全体は約 1,580 m²で、この地に集合住宅の新築工事の計画が明らかになった。

敷地は鳥羽離宮跡の田中殿の比定地であり、鳥羽遺跡にもあたる。京都市文化財保護課が試掘調査を実施し、その結果、弥生時代の遺構、遺物が検出された。このことから、敷地を対象にした発掘調査の必要が指導され、当研究所に調査が委託される運びとなった。調査は南北に 2 箇所調査区を設定し、2007 年 7 月 11 日から機械力による盛土層を除去する作業から開始した。引き続き近・現代の耕作土層、近世から古代の耕作土層、各耕作土層に伴う畝溝の堆積土層を除去して、弥生時代の遺構面と遺構を検出した。7 月 23 日からは検出した遺構の精査、掘込みを行って性格や規模を確認する作業や、写真撮影、図面作成などの記録作業を実施、7 月 30 日から遺構の掘抜き、断割りなどの補足作業を経て、調査区の埋戻し、器材の撤去を行い、8 月 3 日に作業を終了した。

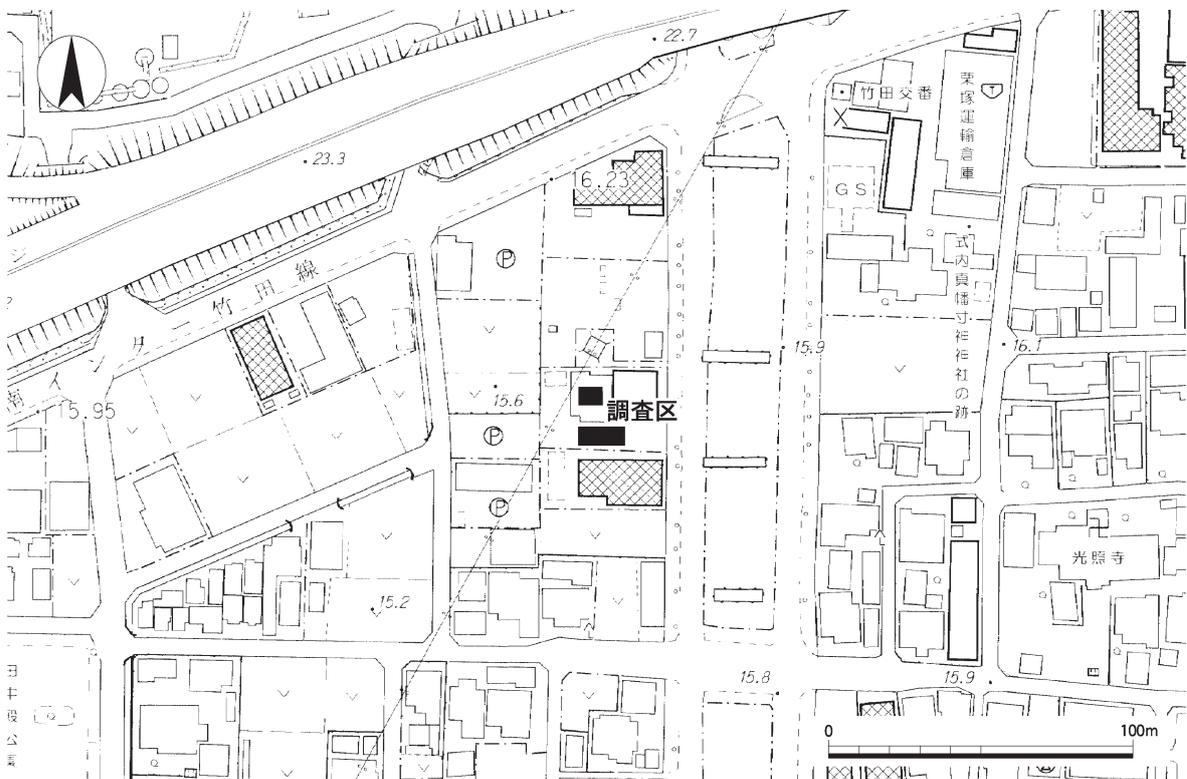


図1 調査位置図 (1:2,500)

8月6日からは検出遺構、出土遺物の点検、洗浄、実測などの報告書作成に向けた準備作業を行い、報文、挿図、図版などの作成を経て、本報告書を作成、これの刊行をもってすべての業務を終了した。

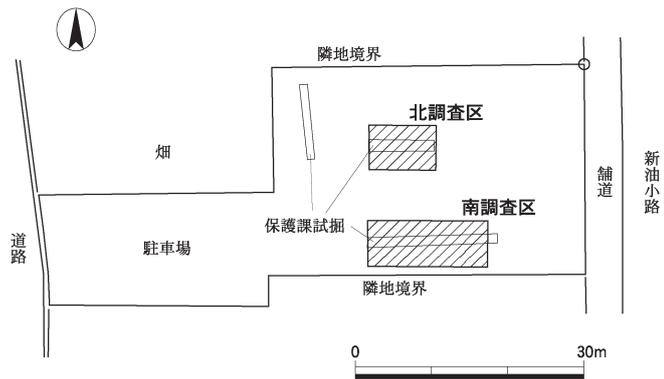


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)

(2) 位置と環境

調査地は伏見区竹田西内畑町で、名神高速道路と建設中の京都高速道路新

油小路線が交叉する南西の地にある。調査地の北方500 mには鴨川が西南流し、鴨川はさらに南西の下鳥羽で桂川と合流している。調査地の東方は、東山山塊が稲荷山で途切れ、南側の大岩山、桃山との間に低平な鞍状丘陵を形成する。

稲荷山と大岩山・桃山からの水を集めて西流する七瀬川は、稲荷山の西南一帯に扇状地を形成している。七瀬川の後背山地は狭く扇状地は未発達であるが、鴨川の東岸側面にあるため、長年にわたって漸次的な影響を鴨川流路に及ぼしている。鴨川の流路変更によって生じた、北東から南西方向の自然堤防の一つに調査地は立地している。

弥生時代の遺跡が成立する土層の下層には、均一な粒度の粘土層が確認され、浅湖か湿地状態で経年した痕跡とみてとれる。この堆積土層中には始良 T n 火山灰が含まれており、約2万5000年前の堆積層として押さえることができる。したがって、この上層の弥生時代の遺構が成立する土層は、縄文海進が極限に達した6千年前までに堆積したもので、鴨川の流路変更による自然堤防を形成し、河川の侵食を免れた高まりとして遺存したとみられよう。

七瀬川の谷奥から流域にかけて縄文時代から弥生時代の遺跡が数ヶ所で確認されている。縄文時代晩期の土器が検出された谷奥に立地する馬谷遺跡、縄文時代の散布地である谷口遺跡、谷口から中流域に展開する縄文時代、弥生時代、古墳時代、飛鳥時代の深草遺跡、下流域に位置する弥生時代の下鳥羽遺跡があり、方形周溝墓、竪穴住居などの発見も報告されている。鴨川の自然堤防上に立地する鳥羽遺跡は、縄文時代、弥生時代、古墳時代の遺跡で、本調査地が位置する遺跡である。

参考文献

- 京都市『京都の歴史1』平安の新京 (株)学芸書林 1970年
- 京都市『史料京都の歴史』第16巻 伏見区 (株)平凡社 1991年
- 横山卓雄『平安遷都と鴨川つけかえ』法政出版(株) 1988年
- 横山卓雄『京都の自然史』(株)京都自然史研究所 2004年
- 京都市文化市民局文化財保護課『京都市遺跡地図台帳』[第8版] 2007年

(3) 周辺の調査 (図3)

調査地周辺の調査で、弥生時代の遺構・遺物が確認された調査には以下のものがある。

昭和52年(1977)に行われた第30次調査(図3-1)では、遺構は検出されなかったが、畿内第Ⅲ様式とみられる水差型土器が出土した。(文献1)

同じく昭和52年(1977)の第35A次調査(図3-2)では、石包丁が出土した。(文献2)

昭和55年(1980)に行われた第64Ⅱ次調査(図3-3)では、弥生時代中期に属した土器、磨製石剣が出土し、土器の器形は壺で、簾状文、斜格子文が認められたとされる。(文献3)

昭和56年(1981)の第71次調査(図3-4)では、弥生時代の溝、土坑が検出された。出土した土器群は畿内第Ⅲ様式～第Ⅳ様式併行とされ、製塩土器、混入とみられる前期の土器、近江、河内、播磨の搬入ないしは影響を受けて製作された土器類が出土している。石器はすべて磨製で、石剣、大型蛤刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、石錘、砥石が出土している。木器は手斧の柄、馬鋤、杵、弓状木製品、木皮輪状編物などが出土した。(文献4)

昭和58年(1983)の第90次調査(図3-5)では、弥生時代の溝、土坑が検出され、中期・後期に属した壺・甕・水差型土器・高杯・鉢などの土器類、石斧・石包丁などの石器、土錘などの土製品が出土している。(文献5)

平成14年(2001)の第145次調査(図3-6)では、混入であるが弥生時代中期とみられる土器片、



図3 周辺調査位置図(1:5,000)



図4 調査前全景（南西から）



図5 作業風景（北西から）

石剣片、石錐、石鏃の未成品が出土している。（文献6）

平成14年（2004）の第149次調査（図3-7）では、後世の遺構に混入した弥生土器甕口縁部、壺底部が出土している。（文献7）

文献（番号は、図3 周辺調査位置図に対応する）

- 1 「第30次発掘調査」『鳥羽離宮跡 国庫補助による発掘調査概要』昭和52年度（財）京都市埋蔵文化財研究所 1978年
- 2 「第35次発掘調査」『鳥羽離宮跡 区画整理道路予定地内発掘調査概要』昭和52年度（財）京都市埋蔵文化財研究所 1978年
- 3 「第64次発掘調査」『鳥羽離宮跡 区画整理道路予定地内発掘調査概要』昭和54年度（財）京都市埋蔵文化財研究所 1981年
- 4 木下保明・本 弥八郎・長宗繁一「第71次調査」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要（発掘調査編）』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1983年
- 5 長宗繁一・前田義明「第90次調査」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 1985年
- 6 尾藤徳行・吉村正親「鳥羽離宮跡145次調査」『鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-8（財）京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 7 本 弥八郎「鳥羽離宮跡149次調査」『鳥羽離宮跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-14（財）京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 8 本調査報告

2. 遺 構

(1) 基本層序

調査区全面に 1.2～1.3 mを測る盛土層（第 1 層）がある。これを除去すると約 0.1 mの暗褐色ないしはオリーブ黒色の土層がみられ、類似した土層は以下に 0.5～0.6 mの厚さで堆積している。この土層は 4 層に分けられ（細分すれば 6 層）、概ね均質な泥砂層からなる。これらは古代から現代に至る耕作土層とみられる。

南調査区では、第 2 層、第 3 層はほぼ水平な堆積が認められるが、第 4 層、第 5 層は東方向への緩やかな傾斜と下端に溝が確認できる。出土遺物は、第 3 層以上に土師器片、施釉陶器片、染付片、第 4 層に土師器片、瓦器片、須恵器片が含まれ、第 5 層以上の各堆積層中に弥生土器片の混入がみられる。弥生時代の遺構は第 5 層を排土して検出され、第 6 層が弥生時代の遺構成立ベースになっている。

(2) 検出遺構

調査で検出した遺構は、北調査区で弥生時代中期の土坑、溝、柱穴、南調査区で弥生時代中期の土坑、柱穴がある。

北調査区（図 7）

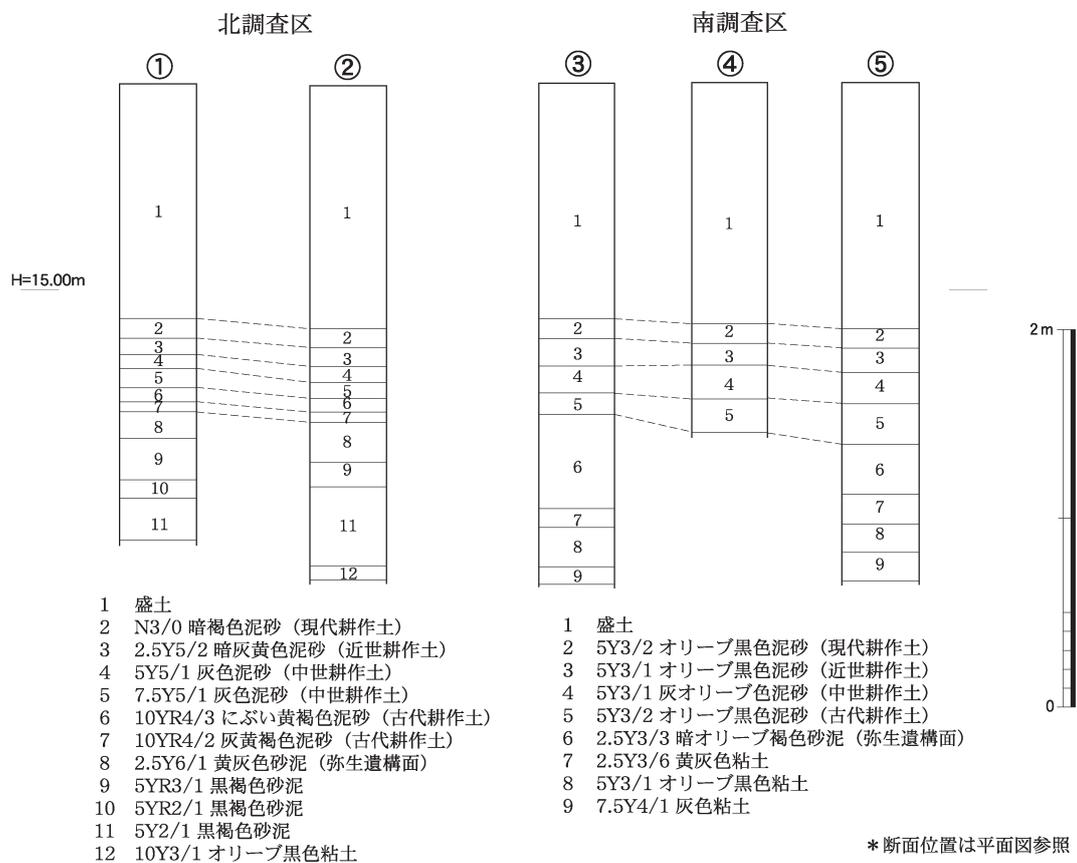


図 6 基本層位図（1：40）

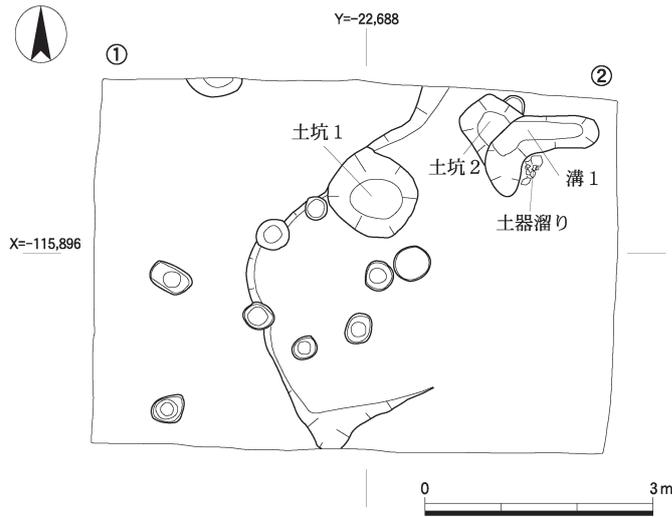
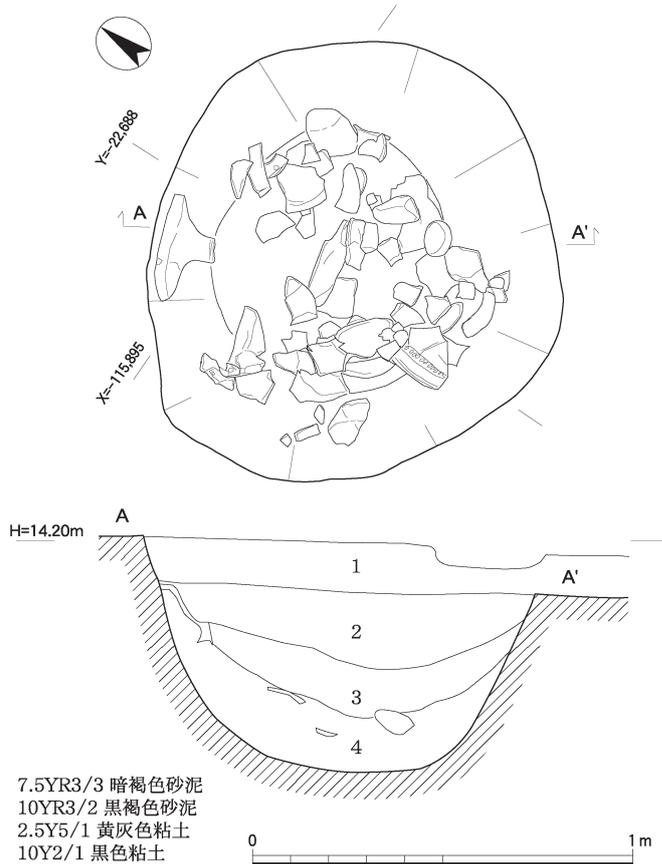


図7 北調査区平面図 (1 : 100)



- 1 7.5YR3/3 暗褐色砂泥
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥
- 3 2.5Y5/1 黄灰色粘土
- 4 10Y2/1 黒色粘土

図8 北調査区土坑1実測図 (1 : 20)

呈する。長径約 2.0 m、短径約 0.7 m、深さ約 0.75 m を測る。埋土から細片化した土器が多量に出土した。土坑自体は北西から流れ込む浅い流路と一体化している。

土坑 2 は調査区西側で検出した。平面形は東西方向に長い楕円形で、長径約 2 m、短径約 0.5 m、深さ約 0.2 m を測る。主として土坑中央部から半完形の土器が多量に出土した。

土坑 1 は調査区中央北寄りに検出した。平面形は円形で、底面は丸いボール状を呈し、径 1.2 m、深さ 0.6 m を測る。堆積はレンズ状で、上層に黒褐色泥砂、中層に黄灰色粘土、下層に黒色粘土が堆積する。土坑埋土中から多量の土器が出土した。上層は小片が多く、中層・下層から半完形の土器が出土した。整然と埋納したものではなく、アトランダムに投棄された状態に近い。また、埋土に炭化物が含まれることから土壌サンプルを採取し、自然遺物の選別を行った。(図 20、表 2)

土坑 2 は調査区北西で検出された。隅丸方形の平面形で、一辺 0.7 m と 0.5 m 以上、深さは 0.2 m を測る。

溝 1 は幅 0.4 m、深さ 0.2 m で、東西から南北方向に曲がり、短く終わる。溝コーナー部分が遺存し、他が削平を受けたものとみられる。

柱穴は掘形径 0.4 ~ 0.5 m、深さ 0.2 ~ 0.4 m のものを 10 基前後検出した。平面形状は円形のものが多いが、隅丸長方形のもの、一方が短く突出するものなどがある。柱痕跡は径約 0.2 m のものが多い。

南調査区 (図 9)

土坑 1 は調査区西端に検出した。平面形は北をやや屈曲する長楕円を

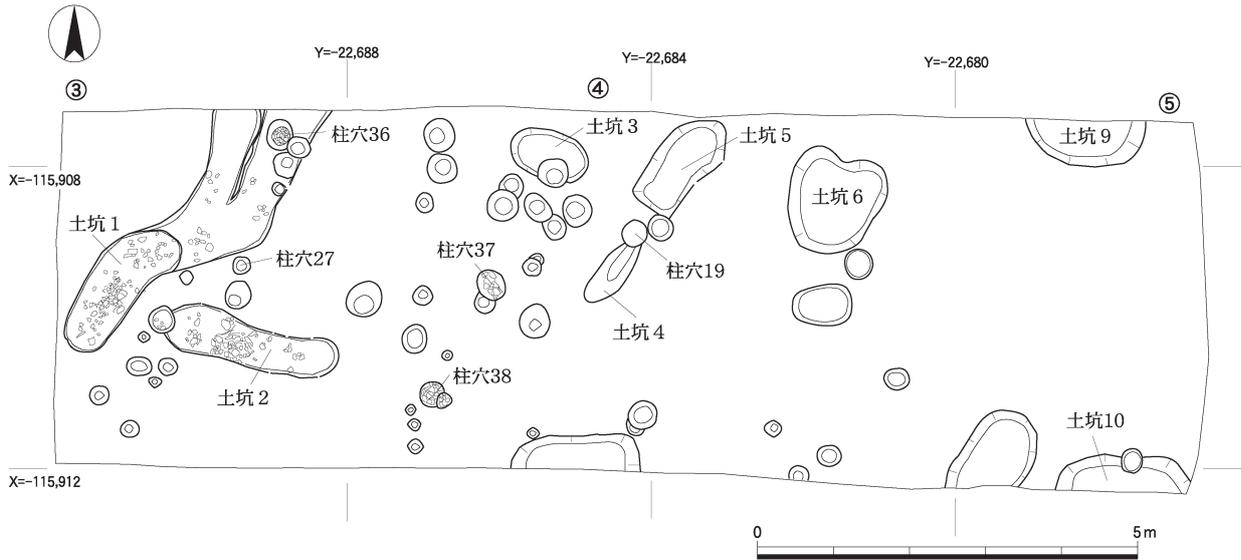


図9 南調査区平面図（1：100）

土坑 3 は調査区中央北側で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.0 m、短径 0.6 m、深さ 0.2 m を測る。底面はほぼ平坦である。

土坑 4 は調査区中央で検出した。東北から西南方向に延びる長楕円形で、長径約 1.0 m、短径約 0.3 m、深さ 0.15 m を測る。

土坑 5 は調査区中央北側で検出した。平面形は北端が突出した長方形で、長径約 1.5 m、短径約 0.7 m、深さ 0.2 m を測る。

土坑 6 は調査区中央やや東側で検出した。平面形は楕円で、北端が小さく凹む。長径 1.2 m、短径約 1.0 m、深さ 0.3 m を測る。堆積土は黒褐色の粘土で、レンズ状に堆積する。埋土中から土器片が多く出土している。

柱穴は平面形が円形で、掘形径 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.2 ～ 0.3 m のものが多数を占めている。柱穴 36 は径 0.2 m の柱あたり内から土器が多く出土した。柱穴 37・38 からは熱により赤色に変色した均質な粘土の塊と土器片が出土した。柱穴は調査区西半部に集中して検出され、東半部は疎らである。調査区が狭小なため明確な建物遺構として復元はできないが、柱穴に重複が認められること、柱痕跡が径 0.2 m 前後であることから、比較的簡易なもので、建替えのあった建物が想定できよう。杭穴は径 0.1 m 前後のもので、調査区全域で 10 箇所以上で検出した。焼土塊を含むものも少数ながら検出した。

表1 遺構概要表

時代	遺構	備考
弥生時代中期	土坑、溝、柱穴、杭穴	
平安時代～江戸時代	耕作土層、畝溝	

3. 遺物

(1) 遺物の概要

調査で出土した遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、石器、焼土塊、瓦片などがある。弥生土器、石器、焼土塊は弥生時代の土坑、柱穴から出土した。その他は各耕作土層、盛土層などから出土した。

出土した弥生土器には壺、甕、高杯、鉢、把手付台付鉢、把手付水差がある。石器は磨製石剣の折片、焼土塊は加熱を受けた粘土が赤色化したものである。

土師器には皿があり、平安時代後期と室町時代後期のものが出土した。須恵器は杯で、底部に粘土紐の痕跡がみられるものと体部片がある。古墳時代後期と飛鳥時代のものが出土した。瓦器は皿が鎌倉時代、室町時代前期のもの、羽釜が室町時代中期のものである。輸入陶磁器は玉縁を有した白磁の椀で平安時代後期のものとみられる。焼締陶器は甕、施釉陶器は鉢でいずれも室町時代のものとみられる。染付磁器は江戸時代中期と後期のものが出土している。瓦は丸瓦の破片で裏面に布目痕を残している。平安時代後期に属するとみられる。

(2) 出土遺物

北調査区暗茶褐色土 (図 10)

暗茶褐色土は土坑 1・2 などの上面に堆積した土層で、土坑 1 などの廃絶後の整地土層とみられる。1～3 は甕で、胴部、頸部、口縁部をハケメ調整、3 は口縁端部外面に刻み目を施す。4 は広口壺の口縁部で端部を上方に引き上げて小さく拡張させる。5 は底部が平坦で器壁が厚く、大型の壺底部片とみられる。

北調査区土器溜り (図 10)

北調査区の北東隅で検出した土器群で、暗茶褐色土に覆われていた。6・7 は甕で胴部内外をハケメ調整、7 は口径が大きく、口縁端部に刻み目を入れる。8 は底部がやや外方に膨らみを持つ。甕の底部とみられる。

北調査区土坑 1 (図 11～13)

土坑 1 の第 3 層下半から第 4 層にかけて多量の土器が出土した。9～16 は甕で口径による大小がみられる。胴部内外の調整はハケメ主体で、口縁端部を小さく拡張するものがみられ、11・12・14・16 は端面に凹線を施す。17～20 は近江系とみられる受け口状口縁を持つ甕で、17 は胴部外面に押圧文、ハケメ調整の後、下半をミガキ、内面上半はハケメ、下半をヘラケズリで調整する。19 は頸部外面に刺突文、20 は折り曲げた口縁端部外面に刺突文を施す。21・22 は甕の底部とみられるもので、21 は器壁厚く、22 はやや薄い。いずれも平坦で、外面をハケメ調整する。23～25 は甕で、23・24 は最大径が胴部上半にある倒卵形で、胴部外面と肩部内面をハケメ、胴部内面をヘラケズリで仕上げる。25 は頸部に一条の突帯を巻き、指頭圧痕文を、口縁端部外面に凹線文を施す。胴部外面と内面肩部にハケメ、胴部内面をケズリで仕上げる。26 は広口壺で、口

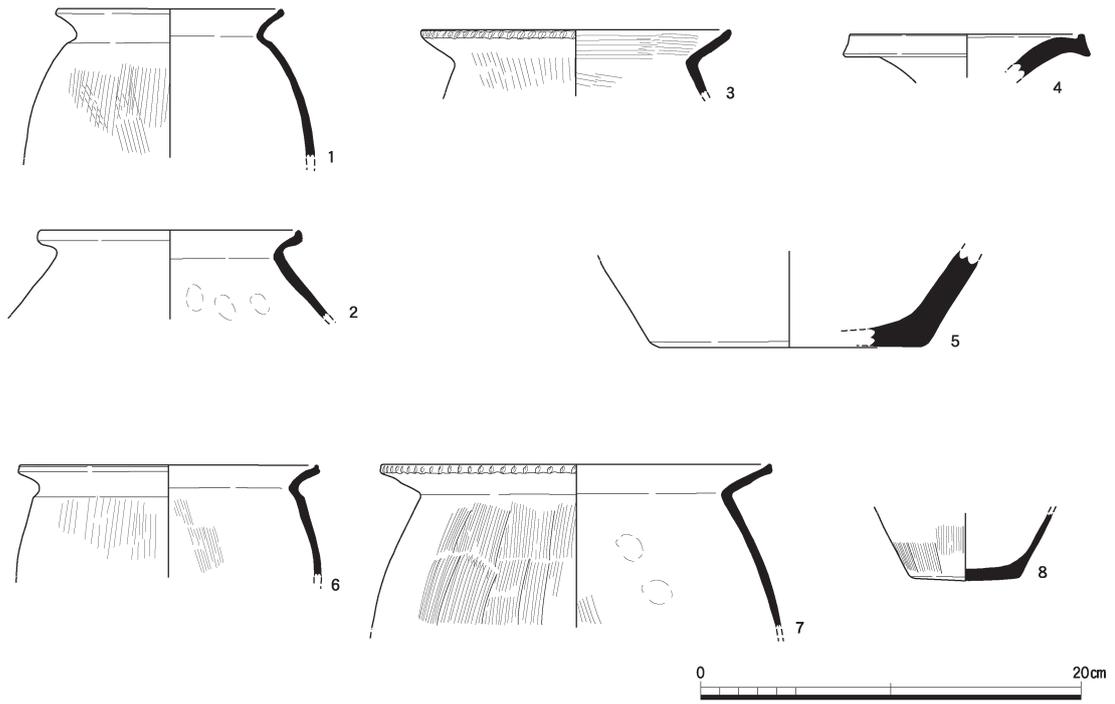


图 10 北調査区暗茶褐色土・土器溜り出土土器実測図（1：4）

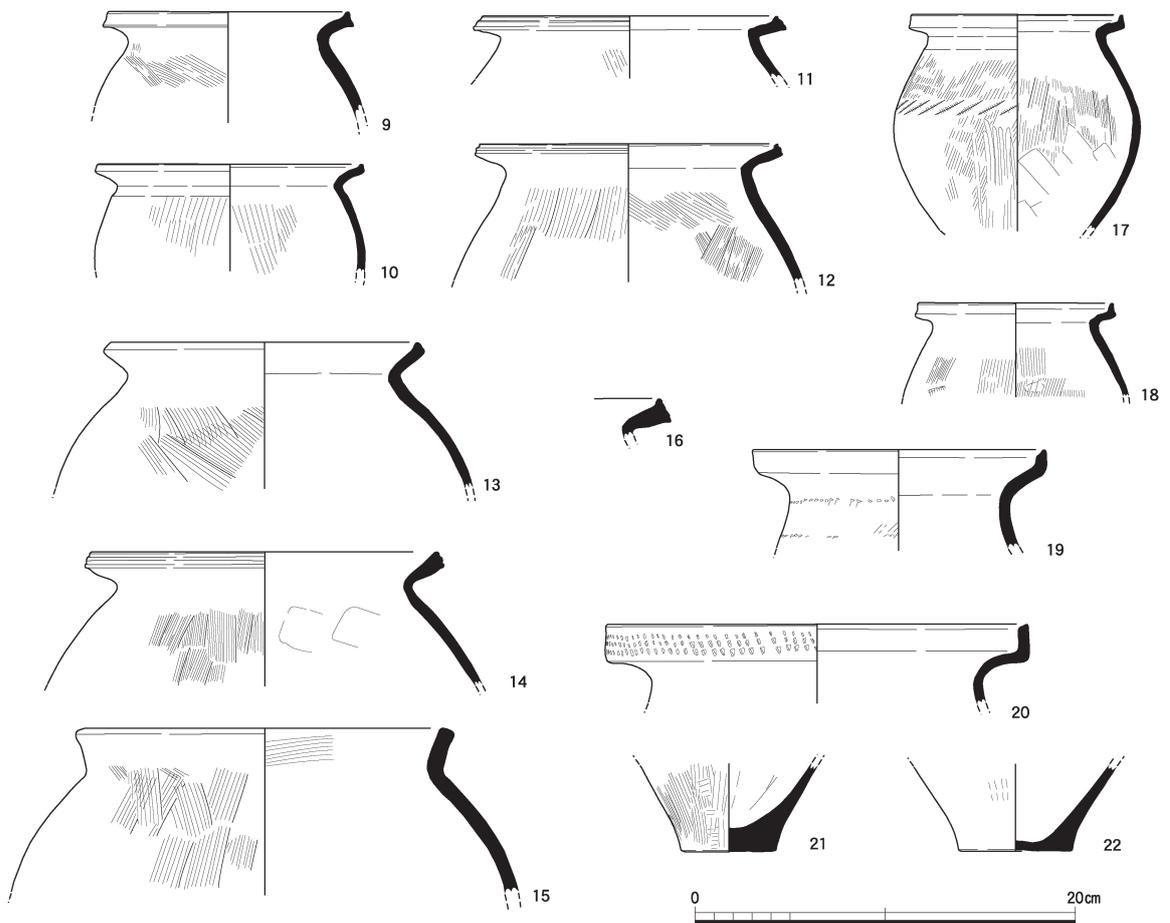


图 11 北調査区土坑 1 出土土器実測図 1（1：4）

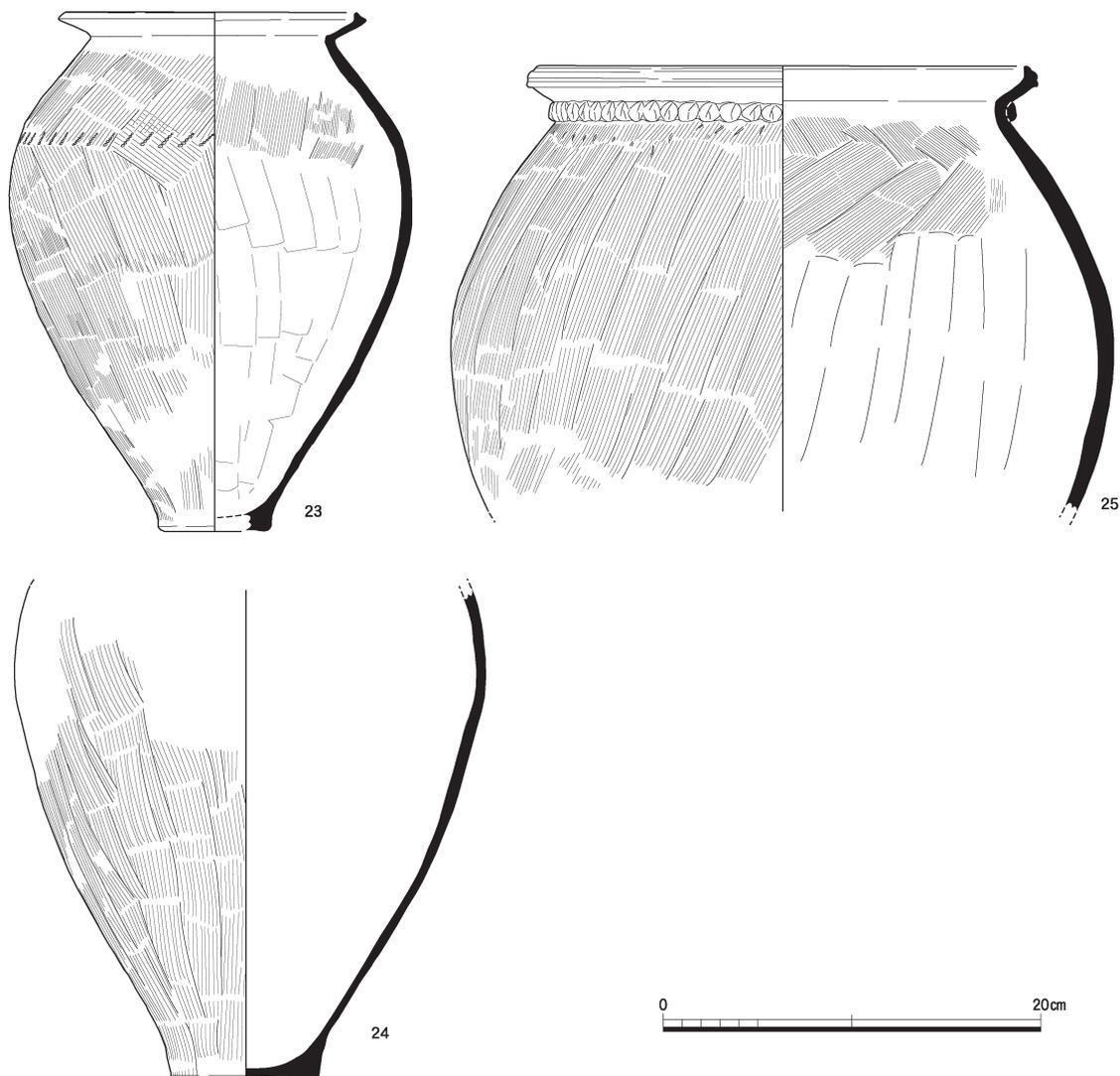


図12 北調査区土坑1出土土器実測図2（1：4）

縁部上半を大きく外反させる。端部は小さく膨らませて端面とする。内外ともにハケメによる調整を行う。27は直口短頸壺の口縁部が遺存したもので、頸部上半に凹線文、下半はハケメで調整する。28は壺の底部とみられるもので、底部外面が上げ底状に窪む。底部内面と胴部下端外面をミガキで調整する。29～33は高杯で、29・30が杯部、31～33が脚部である。29は水平口縁を持つ高杯で、口縁端部の拡張の兆しが見受けられる。口縁内突帯は断面三角形を呈する。30は椀形の杯部を持つ。口縁外面下端に2条の凹線と脚部外面上端に4条の凹線を施す。脚部と杯部を一体で造り、杯底部を粘土円盤で塞いでいる。31は長脚で、ラッパ状に開いた脚端部を拡張して端面を作り出している。外面は縦方向にミガキ、上方と下方に2帯の凹線文を施す。円孔による透かしを配する。32は開いた脚端部を上下に拡張して端面を造る。内面をケズリ、円孔透かしを入れる。33は脚端部を上方に拡張して端面に凹線を施す。外面を縦方向のミガキ、内面をナデで仕上げる。34は台付鉢で、内湾して終わる鉢部に内反り気味の脚台を付ける。口縁際に2孔の紐孔を穿つ。外面は横方向にミガキ、鉢部上方に凹線文、脚部と鉢部接合部に凹線文を施す。35

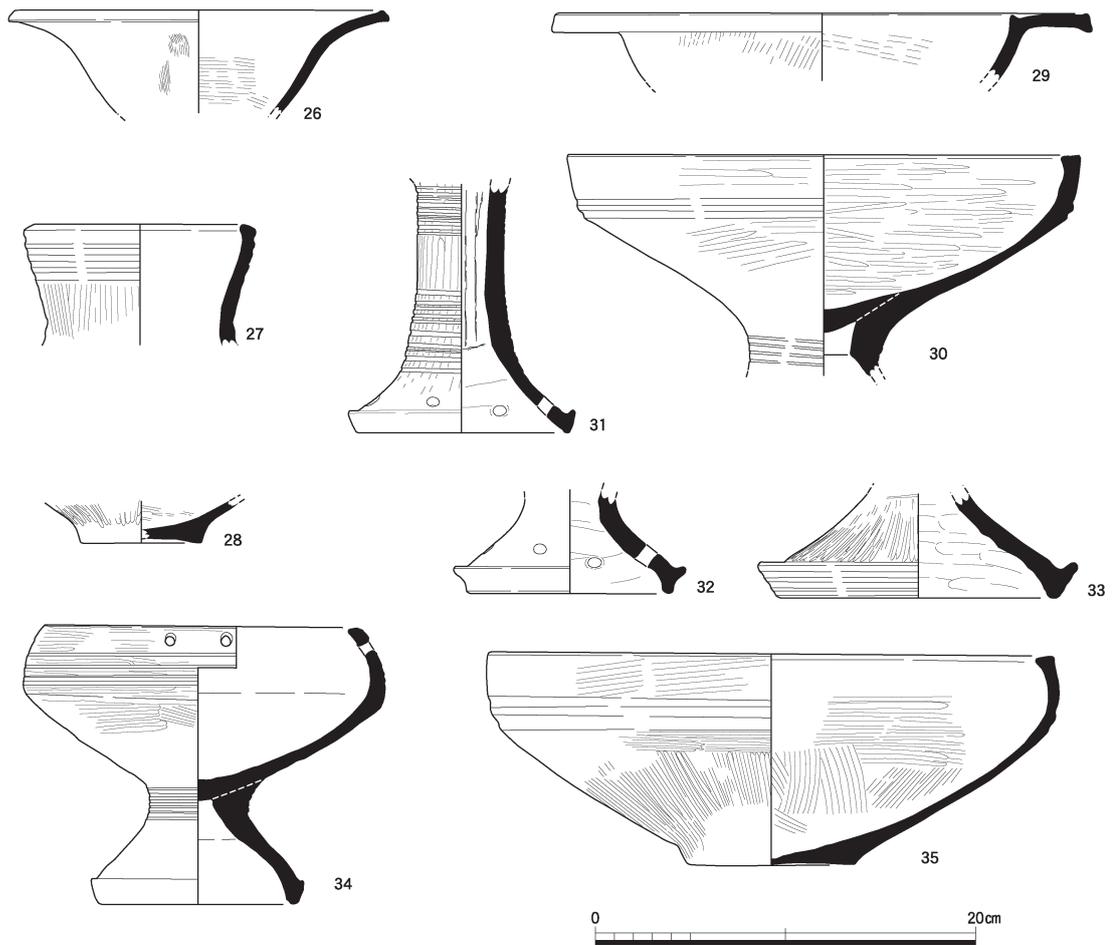


図13 北調査区土坑1出土土器実測図3（1：4）

は鉢で、口縁部は内湾気味に終わり、端部は小さく拡張して上方に端面を造る。底部は平底であるが、やや上げ底状に内方に窪む。鉢上部に幅広の2条の凹線を巡らす。鉢外面下部はミガキで仕上げる。

南調査区土坑1（図14）

36～40は甕で、36・37は上半部が遺存したもので、口縁端部の拡張は十分ではない。38は口縁部端部を僅かに肥厚させ、端面に刻み目を入れ、肩部外面に横方向の波状文と櫛描直線文を施す。39・40は底部が遺存したもので、40は中央が穿孔されている。甕として利用されたものと見られる。41は広口壺で、拡張された口縁部端面に押圧による刻み目を施す。42は受口状口縁を持つ広口壺で、口縁部外端に押圧による刻み目、口縁部内面に刺突文を施す。口縁部内外はハケメによる調整がみられる。43は広口短頸壺で、頸部外面をハケメ調整、口縁端部は僅かに拡張するが、文様を付けない。44は把手付鉢で、下半が欠失し、脚台の有無は不明である。脚台は円孔を穿つものがあり、円孔部のみの破片が当調査でも出土している。45は鉢で、口縁上端外面に深い1条の凹線を巡らし、この上方に押圧による刻み目文を施す。

南調査区土坑2（図15）

46・47は甕で、46は口縁部端面に沈線を巡らし、胴部外面はタタキとハケメによる調整を施す。

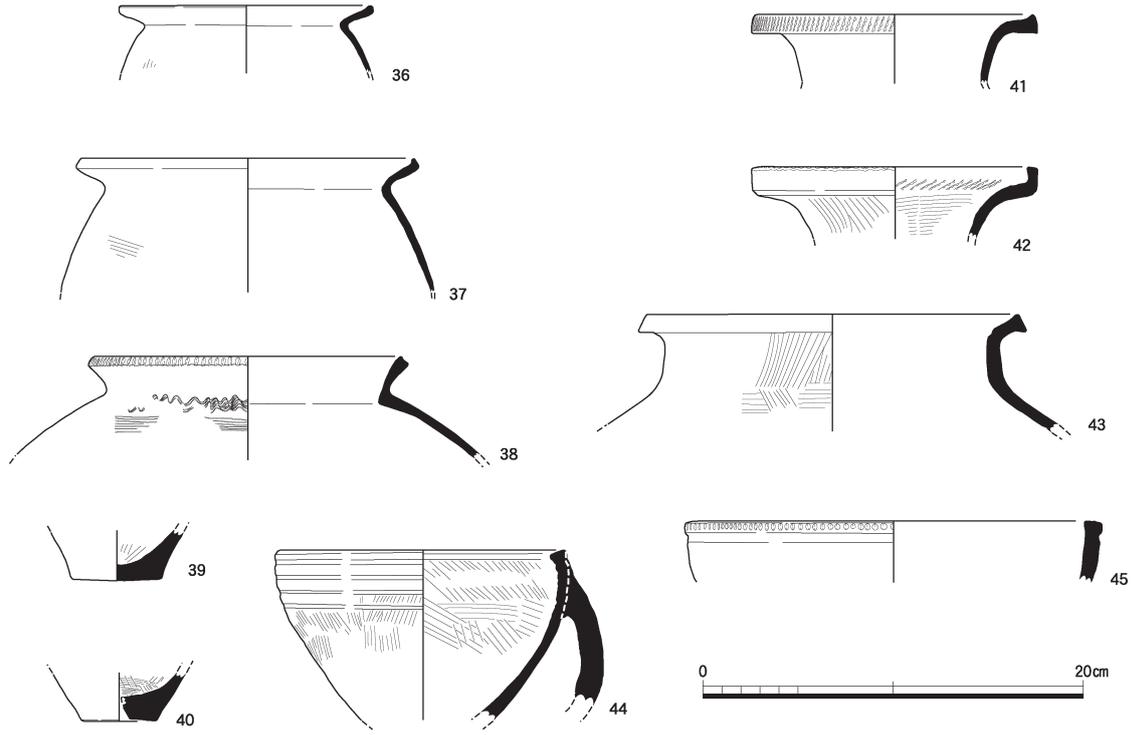


图 14 南調查区土坑 1 出土土器実測図 (1 : 4)

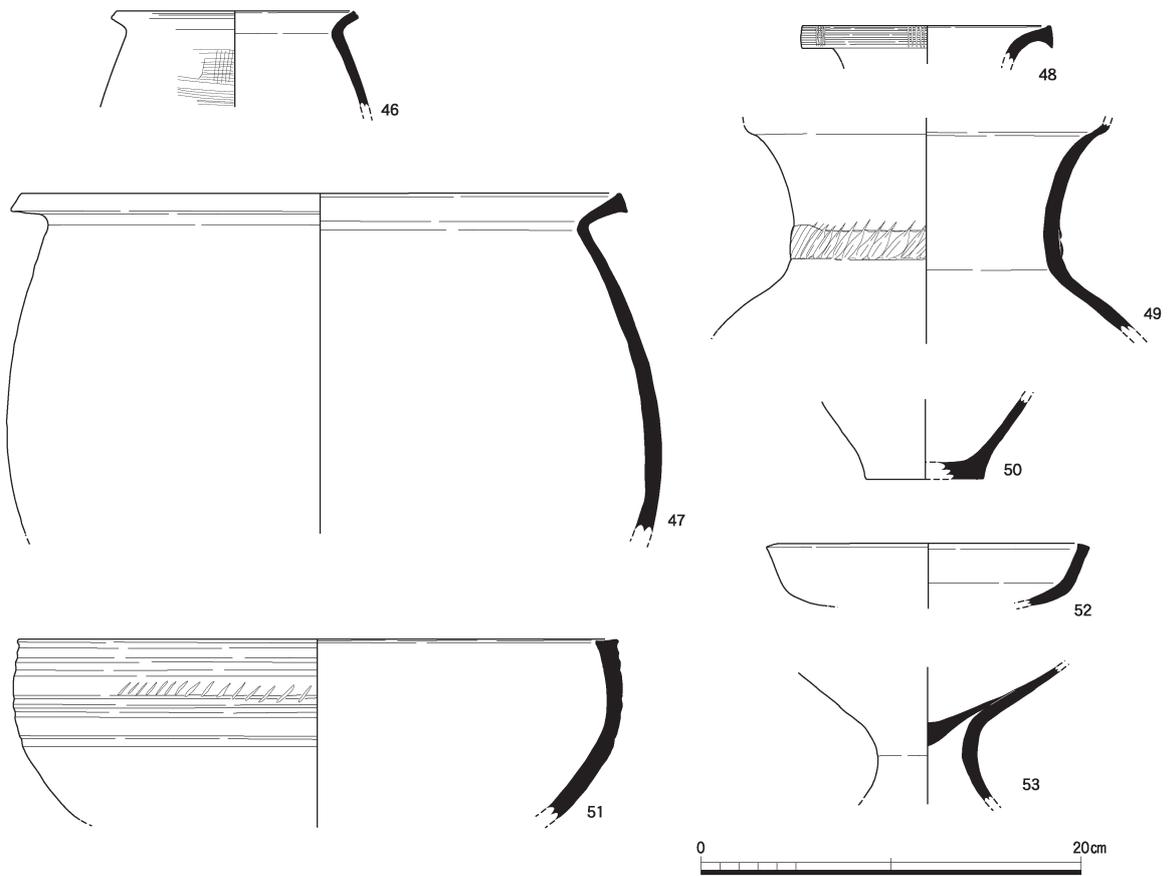


图 15 南調查区土坑 2 出土土器実測図 (1 : 4)

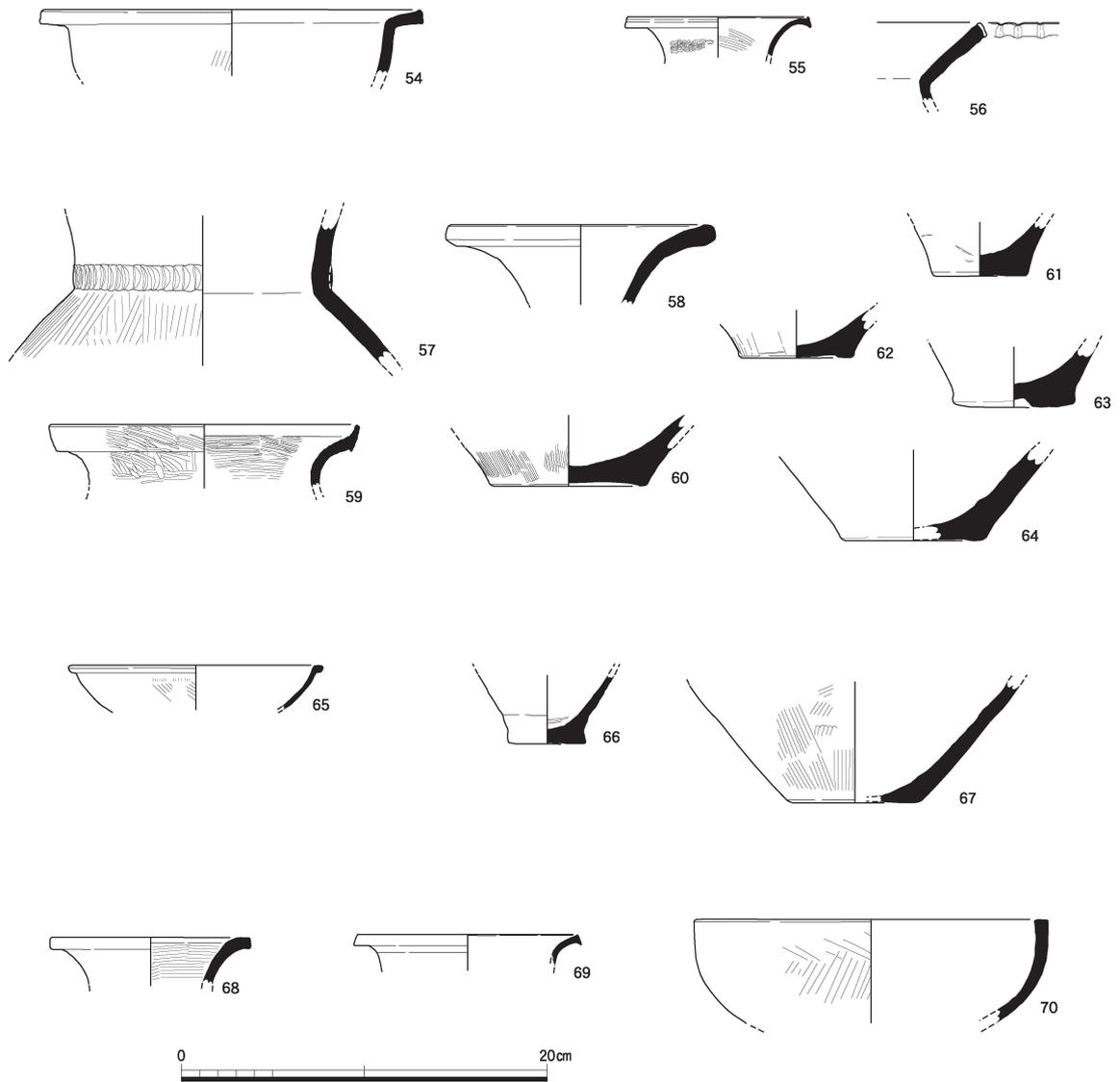


図 16 南調査区土坑 3～10・東部畝溝出土土器実測図（1：4）

47 は大型で、口縁部端面をやや拡張するが、文様はみられない。48 は広口壺で、口縁部端面を拡張し、凹線文と縦方向のヘラ描き直線文を入れる。49 は有段口縁壺で、頸部外面下端に凸帯を巻き、指頭圧痕文を施す。50 は壺の底部で器壁の厚い平底となる。51 は鉢で、鉢部上半は内湾気味に取める。外面に 2 帯の凹線文を入れ、その間に押圧文を配する。52 は高杯の椀形杯部が遺存したもののみられ、杯部はやや浅めになっている。53 は高杯で、脚部上半と杯部下半が遺存した。脚部から杯部は一体で成形され、杯底部を粘土円盤で塞ぐものである。

南調査区土坑 3～10・東部畝溝（図 16）

54 は土坑 3 から出土した。甕で口縁端部の拡張は顕著ではない。55・56 は土坑 5 から出土した。55 は広口壺で、口縁端面に沈線、口縁部外面に波状文を施す。56 は甕で、口縁端部に指頭圧痕による刻み目を入れる。57～64 は土坑 6 から出土した。57 は有段口縁壺で、肩と頸部が遺存した。頸部には凸帯が巻かれ、指頭圧痕による文様が付けられる。58 は広口壺で、口縁端部は拡張されていない。60 は大型の壺底部で、平底であるが、上げ底風に内方に窪む。59 は甕で、外反した

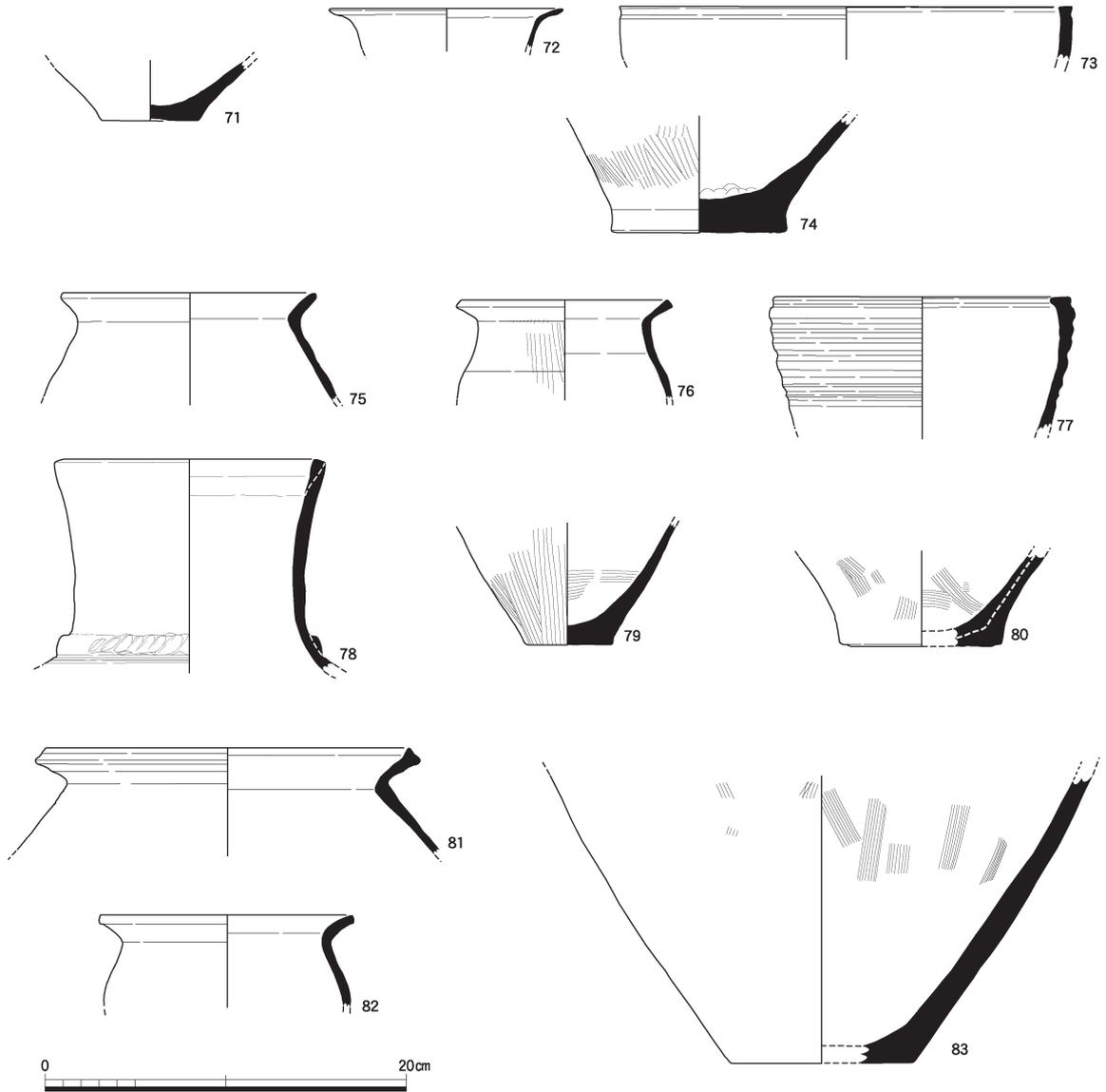


図 17 南調査区柱穴内出土土器実測図（1：4）

口縁の端部を上方に引き上げ、受け口風に収める。口縁部上半外面をミガク。61～64は壺か甕の底部が遺存したもので、外面底部中央が窪むものが多い。65は土坑9から出土した鉢で、口縁端部を丸めて収めたもので、玉縁状を呈する。66・67は土坑10から出土した甕の底部で、66は底部の器壁が厚く、67は薄い。68～70は調査区東半の弥生遺構面直上の耕作土層に伴った畝溝から出土した。68・69は広口壺で、68は口縁端部が未拡張、69は小さく拡張する。70鉢で上半を内湾気味に収める。

南調査区柱穴内出土（図 17）

71は甕の底部で、柱穴19から出土下。72～74は柱穴27から出土した。72は広口壺で口縁端部は拡張がみられない。73は鉢で口縁部上端に1条の沈線が巡る。74は大型の壺底部で、ヘラケズリとナデで底部を平坦に調整する。75・76は甕で、口縁端部の拡張が未熟である。77は直口壺で、口縁部はやや内湾して収まり、上半部に凹線文を施

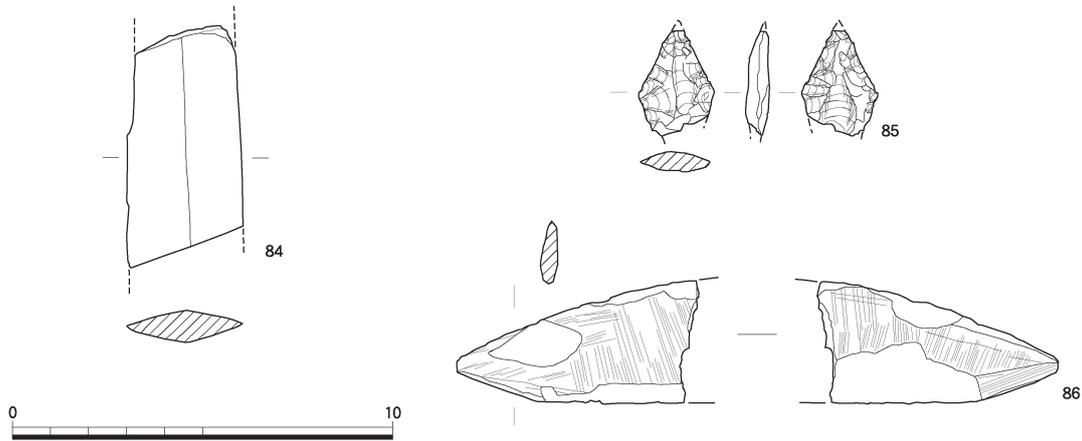


図18 石製品実測図（1：2）

す。78は直口壺で、頸部に凸帯を巻き、指頭圧痕文を付ける。79・80は甕あるいは壺の底部で、いずれも平底であるが、80の底部径は大きく、内側から粘土を補充して作製している。81は甕で柱穴37から出土した。口縁端部は上方に拡張され、端面を作るが、文様は認められない。

82・83は柱穴38から出土した。82は口縁端部の拡張は認められない。83は甕の底部と胴部下半で、内外面をハケメで調整している。

石製品（図18・19）

84は北調査区暗茶褐色土から出土した磨製石剣で、剣先と基部を欠いている。残存長7.8cm、幅3.0cm、厚さ0.9cmを測る。粘板岩製で両面共に丁寧に研磨されている。

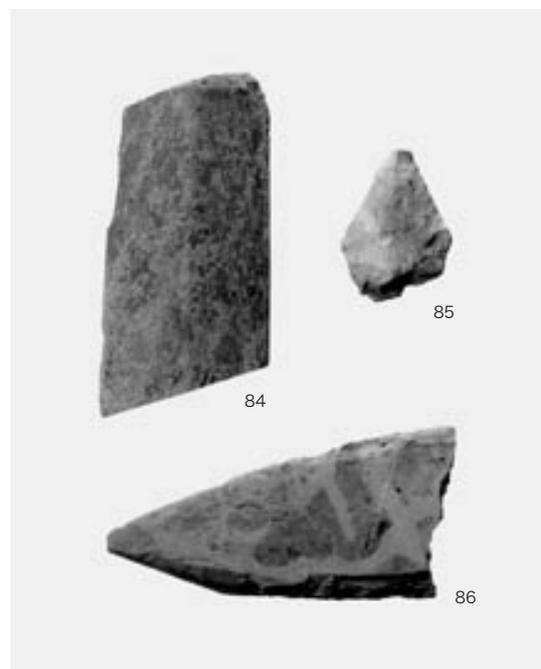


図19 石製品

85の打製石鏃は南調査区柱穴32から出土した。凸基有茎鏃とみられるもので、先端と基部を欠く。残存長2.8cm、翼部で2.0cm、厚さ0.62を測る。材質はサヌカイト製である。

86は石包丁で、南調査区土坑1から出土した。半月形で全形の半分を欠く。全体に荒い研磨擦痕が残り、研磨工程途中の未成品とみられる。残存長6.4cm、最大幅3.2cm、厚さ0.5cmを測る。



図 20 北調査区土坑 1 検出自然遺物

表 2 北調査区土坑 1 検出自然遺物リスト

和名	科名	出土部位	個 数	生育場所
ミズ属	イラクサ	種子	2	湿った所
ザクロソウ	ザクロソウ	種子	34	畑
アカザ属	アカザ	種子	205 (一部炭化)	畑・野原
マメ類1	マメ	種子	6 (炭化)	栽培
マメ類2	マメ	種子	1 (炭化)	栽培
シソ科	シソ	果実	6 (一部炭化)	畑・人家の近く
イネ	イネ	果実	5 (炭化)	栽培
イネ科	イネ	穎	1 (炭化)	栽培
ホタルイ属	カヤツリグサ	果実	5 (一部炭化)	湿地・溝・水田
昆虫		脚部	1	

土壌サンプル約320mlを洗浄後、0.25mmまでの篩で選別し実体顕微鏡で同定した。

表 3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	弥生土器、石器		弥生土器83点、石器 3 点		
古墳時代～ 飛鳥時代	須恵器				
平安時代	土師器、白磁、瓦				
室町時代	焼締陶器、施釉陶器				
江戸時代	染付磁器				
合 計		34箱	86点 (8 箱)	2 箱	24箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より10箱多くなっている。

4. ま と め

調査で検出された遺構は土坑、小溝、柱穴、杭穴などがあり、出土遺物は弥生時代中期の土器、石剣、焼土塊などがある。土坑は土器類を中心にした排棄土坑で、柱穴は重複があり、建替えを含めた小規模な建物の存在がみてとれる。また、その一部の柱穴から、焼土塊が投棄された状態で大量に出土している。焼土塊は径2 cm前後から15 cm前後のものまであり、面を有する部分も認められる。何らかの構築物や建築物の一部とも考えられ、建物の性格を考える上で重要な資料となろう。

第71次調査で検出された溝、土坑などの遺構群は、調査地の南東50 m前後を離れた位置にあり、伝承で真幡寸神社跡とされる若宮八幡宮が調査地北西100 mの位置にある。鴨川の自然堤防を利用した集落の立地から推定すれば、この3地区を含めた北東から南西に延びた範囲が集落の主要地区であろう。

調査で出土した土器は、全体として弥生時代中期、第Ⅲ様式から第Ⅳ様式の範囲内に比定できる。しかし、北調査区土坑1出土遺物は一括性の高い土器群であり、水平口縁高杯の端部垂下度合いや甕口縁端部の拡張比率から第Ⅲ様式新相期に収まるものといえよう。また、南調査区の土坑や畝溝に第Ⅱ様式の特徴を持つ甕片が混入していることや、第71次調査で出土した遺物中に前期遺物の混入があり、これらは集落の開始時期を示唆した遺物とみることもできる。

弥生時代中期の遺構の上面には、近・現代の水田土層を最終にして各時期の耕作土が堆積する。最下面の耕作土層の時期は、出土遺物や各堆積層の相対年代から検討しても、平安時代を大きく遡れるものではない。古墳時代後期や飛鳥時代の須恵器片が少量出土するが、伴う遺構は検出されていない。このことから、調査地近辺では、弥生時代中期遺構群の廃絶後、空白期が長く続いたとみられ、平安時代に至ってようやく耕作地として土地利用が開始されている。平安時代後期にはこれらの耕作地の一部が整地を受けて田中殿や鳥羽離宮の施設群が造営される。しかし調査地近隣では、鳥羽離宮造営の整地を受けた痕跡がなく、調査地が鳥羽離宮施設群からやや外れた地区に位置していたものとみてとれる。

表4 掲載遺物一覧表

番号	器種	器形	口径	器高	調整	胎土	色調	焼成	調査区	遺構名	時代
1	土器	甕	11.7	残器高 7.9	ナデ、ハケメ、ヨコナ デ	やや粗 1mm以下長石、石 英、チャート	5YR7/3にぶい橙	良	北調査区	暗茶褐色土	弥生
2	土器	甕	13.6	残器高 4.7	ナデ	粗 2mm以下長石、チャ ート、石英	5YR7/6橙	やや 軟	北調査区	暗茶褐色土	弥生
3	土器	甕	16.2	残器高 3.5	ハケメ、ナデ、刻み目	やや粗 0.1mm長石、石英、 チャート	10YR8/1 灰白	良	北調査区	暗茶褐色土	弥生
4	土器	壺 底部	12.0	残器高 2.3	ヨコナデ、ナデ	やや粗 2mm以下長石、石 英、チャート	7.5YR8/6浅黄橙	軟	北調査区	暗茶褐色土	弥生
5	土器	壺 底部	底径 14.2	残器高 5.0	不明				北調査区	暗茶褐色土	弥生
6	土器	甕	15.5	残器高 5.9	ナデ、ハケメ、ヨコナ デ	やや粗 1mm以下長石、 チャート、石英	5YR7/4にぶい橙	良	北調査区	土器溜り	弥生
7	土器	甕	10.4	残器高 8.65	ナデ、ハケメ、刻み目、 ヨコナデ	粗 3mm以下長石、石英、 チャート	7.5YR8/1灰白	やや 軟	北調査区	土器溜り	弥生
8	土器	甕 底部	底径 5.8	残器高 3.6	ハケメ、ナデ、ケズリ	粗 2mm以下長石、チャ ート、石英	7.5YR8/1灰白	良	北調査区	土器溜り	弥生
9	土器	甕	12.6	残器高 5.85	ヨコナデ、ハケメ、ナ デ	密 2mm以下長石、石英、 チャート、金雲母	7.5YR6/1褐灰	良	北調査区	土坑1	弥生
10	土器	甕	13.8	残器高 5.65	ヨコナデ、ハケメ	1mm以下長石、石英、雲母	7.5YR7/3にぶい橙	良	北調査区	土坑1	弥生
11	土器	壺	15.4	残器高 3.3	ヨコナデ、ハケメ、凹 線文	密 1mm以下長石、石英、 チャート、金雲母	2.5Y5/2暗灰黄	良	北調査区	土坑1	弥生
12	土器	甕	17.6	残器高 7.3	ハケメ、ナデ、ヨコナ デ	やや粗 2mm以下長石、石 英、チャート	10YR7/2にぶい黄橙	良	北調査区	土坑1	弥生
13	土器	甕	16.0	残器高 7.7	ナデ、ナナメハケ、ヨ コナデ	2.5mm以下長石、1.5mm以下 チャート、1mm以下褐色粒子	10YR7/3にぶい黄橙	良	北調査区	土坑1	弥生
14	土器	壺	18.1	残器高 7.1	ナデ、ハケメ、ヨコナ デ、凹線文	粗 3mm以下長石、石英、 チャート	7.5YR8/6浅黄橙	やや 軟	北調査区	土坑1	弥生
15	土器	甕	18.8	残器高 8.75	ナデ、ハケメ、ケズリ、 ヨコナデ	粗 2mm以下長石、チャ ート、石英	2.5Y8/1灰白	やや 軟	北調査区	土坑1	弥生
16	土器	甕		残器高 2.2	ヨコナデ、凹線文	密 1mm以下長石、金雲母、 チャート	10YR4/1褐灰	やや 軟	北調査区	土坑1	弥生
17	土器	甕	11.0	残器高 11.4	ミガキ、ハケメ、ヨコナ デ、ヘラケズリ、押圧文	2mm以下長石、石英、雲母	10YR7/3にぶい黄橙	良	北調査区	土坑1	弥生
18	土器	甕	10.2	残器高 4.9	ヨコナデ、ハケメ、板 ナデ	やや粗 2mm以下長石、 チャート、金雲母、石英	10YR7/4にぶい黄橙	良	北調査区	土坑1	弥生
19	土器	甕	15.2	残器高 5.2	ヨコナデ、ハケメ、ナ デ	やや粗 長石、石英、黒色 粒子	7.5YR6/4にぶい橙	良	北調査区	土坑1	弥生
20	土器	甕	22.0	残器高 4.3	ヨコナデ、ナデ	やや粗 2mm以下長石、石 英、黒色粒子	10YR3/1黒褐	良	北調査区	土坑1	弥生
21	土器	甕 底部	底径 5.0	残器高 4.7	ハケメ	やや粗 2mm以下長石、 チャート、金雲母	外 N3/0暗灰 内 2.5Y7/1灰白	良	北調査区	土坑1	弥生
22	土器	甕 底部	底径 5.8	残器高 4.6	ナデ、ミガキ	やや粗 2mm以下長石、石 英、黒色粒子、赤色粒子	外 10YR7/3にぶい黄橙 内 2.5Y5/1黄灰	やや 軟	北調査区	土坑1	弥生
23	土器	甕	15.4	27.65	ヘラケズリ、ハケメ、 押圧文	2mm以下長石、石英	10YR7/2 にぶい黄橙	良	北調査区	土坑1	弥生
24	土器	甕 底部	底径 7.9	残器高 26.2	ハケメ、ナデ、	密 3mm以下長石、石英、 チャート、赤色粒子	外 10YR8/3浅黄橙 内 2.5Y5/1黄灰	やや 軟	北調査区	土坑1	弥生
25	土器	壺 底部	25.8	残器高 23.7	タテハケ、ヨコナデ、 凹線文、貼付突帯	やや粗、2mm以下長石、石 英、黒色粒子、赤色粒子	外 10YR6/1褐灰 内 7.5YR7/3にぶい橙	良	北調査区	土坑1	弥生
26	土器	広口 壺	19.2	残器高 5.45	ハケメ、ヨコナデ	密 1mm以下長石、石英、 チャート	7.5YR8/3浅黄橙	やや 軟	北調査区	土坑1	弥生
27	土器	壺	11	残器高 6.4	ヨコナデ、ハケメのち ナデ、ナデ、凹線文	やや粗 1mm以下長石、 チャート	5YR8/2灰白	良	北調査区	土坑1	弥生
28	土器	甕 底部	底径 6.2	残器高 2.2	ミガキ、ナデ	密 1mm以下長石、石英、 金雲母	N3/0暗灰	良	北調査区	土坑1	弥生
29	土器	高杯	27.7	残器高 2.55	ハケメ、ヨコナデ	やや粗 1mm以下長石、石 英、チャート、赤色粒子	10YR7/1灰白	やや 軟	北調査区	土坑1	弥生

番号	器種	器形	口径	器高	調整	胎土	色調	焼成	調査区	遺構名	時代
30	土器	高杯	26.8	残器高 11.7	ミガキ、ヨコナデ、沈線	やや粗、3mm以下長石、石英、金雲母、黒色粒子	10YR5/1 褐灰	良	北調査区	土坑1	弥生
31	土器	高杯脚	底径 11.1	残器高 13.1	ミガキ、ヨコナデ、ケズリ、凹線文	密 1mm以下長石、石英、黒色粒子	10YR7/2 にぶい黄橙	良	北調査区	土坑1	弥生
32	土器	高杯脚	底径 10.3	残器高 5.5	ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや粗 2mm以下長石、石英、赤色粒子	10YR7/2 にぶい黄橙	良	北調査区	土坑1	弥生
33	土器	高杯脚	底径 14.4	残器高 5.5	ミガキ、ヨコナデ、凹線文、ナデ	密 1mm以下長石、石英、チャート	10YR3/1 黒褐	良	北調査区	土坑1	弥生
34	土器	台付鉢	16.2	14.8	ミガキ、ナデ、凹線文、穿孔、ヨコナデ	2mm以下長石、石英	10YR8/2 灰白	良	北調査区	土坑1	弥生
35	土器	鉢	29.9	11.3	ミガキ、凹線文、ヨコナデ、ハケメ	密 2mm以下長石、石英、チャート、金雲母、赤色粒子	5YR7/6 橙	やや軟	北調査区	土坑1	弥生
36	土器	甕	13.4	残器高 3.6	ハケメ、ヨコナデ、ケズリのちナデ	密 2mm以下長石、石英、チャート、赤色粒子		やや軟	南調査区	土坑1	弥生
37	土器	甕	17.4	残器高 7.1	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	密 2mm以下長石、石英、チャート、金雲母	10YR7/4 にぶい黄橙	やや軟	南調査区	土坑1	弥生
38	土器	甕	16.0	残器高 5.4	刻み目、櫛描波状文、櫛描直線文	3mm以下チャート・長石、1.5mm以下褐色粒子	10YR8/2 灰白	良	南調査区	土坑1	弥生
39	土器	甕底	底径 4.6	残器高 2.6	ナデ、ヨコナデ	密 2mm以下長石、石英、チャート、赤色粒子	7.5YR7/4	良	南調査区	土坑1	弥生
40	土器	甕底	底径 3.8	残器高 2.6	ナデ、ハケメ	2mm以下長石、金雲母、砂粒多い	外 7.5YR3/1黒褐 内 10YR7/にぶい黄橙	良	南調査区	土坑1	弥生
41	土器	壺底部	14.4	残器高 3.6	ナデ、ヨコナデ	密 1mm以下長石、チャート、雲母	7.5YR7/3 にぶい橙	良	南調査区	土坑1	弥生
42	土器	甕	14.9	残器高 3.8	ヨコナデ、ハケメ、刺突文	密 2mm以下長石、石英、チャート、赤色粒子	2.5Y8/2 灰白	良	南調査区	土坑1	弥生
43	土器	壺	19.45	残器高 6.22	ヨコナデ、ナデ、ナナメハケ	3.5mm以下チャート、3mm以下長石、2mm以下石英、7mm褐色粒	外 5YR6/6 内 10YR8/2	良	南調査区	土坑1	弥生
44	土器	把手付鉢	14.8	残器高 9.0	ナデ、ハケメ、ヨコナデ、凹線文	2mm以下砂粒多量、長石、金雲母、赤色粒子、チャート	10YR7/2 にぶい黄橙	良	南調査区	土坑1	弥生
45	土器	鉢	20.2	残器高 3.25	刻み目、凹線文	3mm以下チャート、2mm以下長石・石英、0.1mm雲母	10YR7/4 にぶい黄橙	良	南調査区	土坑1	弥生
46	土器	甕	復元 12.8	残器高 4.1	ヨコナデ、タタキ、タテハケ	密 石英、黒色砂粒多量	外 10YR6/2灰黄褐 内 10YR7/2にぶい黄橙	良	南調査区	土坑2	弥生
47	土器	甕	復元 31.4	残器高 18.0	ヨコナデ	密 粗粒少量	10YR7/4 にぶい黄橙	良	南調査区	土坑2	弥生
48	土器	広口壺	復元 13.0	残器高 2.0	ヨコナデ	密 石英、黒色粒子少量	10YR8/1灰白	良	南調査区	土坑2	弥生
49	土器	有段口縁壺	頸径 14.0	残器高 11.0	突帯文	密 石英多量、黒色砂粒少量	外 5YR7/6橙、内(頸部10YR8/2灰白、体部2.5Y3/1黒褐)	やや軟	南調査区	土坑2	弥生
50	土器	甕底部	底径 6.2	残器高 4.4	ナデ	緻密 石英、黒色粒子	内外面10YR8/1灰白 胎土10YR6/4にぶい黄橙	良	南調査区	土坑2	弥生
51	土器	鉢	復元 31.4	残器高 9.6	ヨコナデ	密 黒色砂粒を微量	2.5Y8/1 灰白	やや軟	南調査区	土坑2	弥生
52	土器	高杯	復元 15.8	残器高 3.3	ヨコナデ	緻密 砂粒ほとんど含まず	7.5YR6/4 にぶい橙	良	南調査区	土坑2	弥生
53	土器	高杯	脚基部 径5.2	残器高 7.1		密 石英・長石少量	10YR7/6 明黄褐	良	南調査区	土坑2	弥生
54	土器	甕	20.5	残器高 3.7	ナデ、ヨコナデ、ハケメ	3mm以下長石、石英、金・黒雲母 砂粒多量	10YR7/2	良	南調査区	土坑3	弥生
55	土器	壺	19.1	残器高 4.5	ヨコナデ、ハケメ、波状文	2mm以下長石、金雲母、黒雲母	7.5YR8/2 灰白	良	南調査区	土坑5	弥生
56	土器	甕	不明	残器高 4.3	不明	3mm以下砂粒少量、長石、金雲母	10YR8/2 灰白	良	南調査区	土坑5	弥生
57	土器	壺底部	不明	残器高 8.2	突帯、ハケメ、ヨコナデ、刻み目文	3mm以下長石・石英・チャート	10YR6/2 灰黄褐	良	南調査区	土坑6	弥生
58	土器	壺底部	14.0	残器高 4.4	不明	2mm以下長石・石英	10YR7/3 にぶい黄橙	良	南調査区	土坑6	弥生

番号	器種	器形	口径	器高	調整	胎土	色調	焼成	調査区	遺構名	時代
59	土器	甕	16.6	残器高 3.5	ヨコナデ、ハケ、ミガキ	1mm以下長石、金雲母	2.5Y4/1 黄灰	良	南調査区	土坑6	弥生
60	土器	壺 底部	底径 8.0	残器高 3.9	ナデ、ハケメ	2mm以下長石・石英	2.5Y7/2 灰黄	良	南調査区	土坑6	弥生
61	土器	甕 底部	底径 5.0	残器高 3.0	ナデ	密 2mm以下長石、石英、 チャート	10YR7/2 にぶい黄橙	良	南調査区	土坑6	弥生
62	土器	甕 底部	底径 6.0	残器高 2.6	ナデ、ヘラナデ、木葉 文	2mm以下長石・石英	2.5Y7/1 灰白	良	南調査区	土坑6	弥生
63	土器	甕 底部	底径 6.7	残器高 3.25	不明	2mm以下長石・石英	2.5Y6/2 灰黄	良	南調査区	土坑6	弥生
64	土器	壺 底部	底径 7.4	残器高 5.0	ナデ、ハケメ	2mm以下長石・石英	10YR7/3	良	南調査区	土坑6	弥生
65	土器	鉢	27.8	4.9	ミガキ、ケズリ、ヨコ ナデ	密 1mm以下長石・石英・チ ャート・黒色粒子・赤色粒子	5YR7/6 橙	やや 軟	南調査区	土坑9	弥生
66	土器	甕 底部	底径 2.1	残器高 3.75	ナデ、タタキ	2.5mm以下長石、1mm以下石英、2 mm以下チャート、0.5mm以下雲母	10YR1.7/1 黒	良	南調査区	土坑10	弥生
67	土器	甕 底部	底径 6.4	残器高 6.7	ハケメ、ナデ、ヨコナ デ	密 2mm以下長石、石英、 チャート	2.5Y8/2 灰白	良	南調査区	土坑10	弥生
68	土器	広口 壺	復元 10.8	残器高 2.6	ヨコナデ	密 粗粒多量	10YR7/2 にぶい黄橙	良	南調査区	東部畝溝	弥生
69	土器	広口 壺	復元 24	残器高 3.5	不明	密 石英、長石 中量	外 10YR7/6明黄褐 内 と胎土 10YR8/3浅黄橙	やや 軟	南調査区	東部畝溝	弥生
70	土器	鉢	19.2	残器高 5.7	ナデ、ハケメ、ヨコナ デ	2mm以下長石、石英、黒雲 母多く含む	2.5Y3/1 黒褐	良	南調査区	東部畝溝	弥生
71	土器	甕底	底径 7.4	残器高 3.3	不明	石英、長石、黒雲母、赤 色粒子、砂粒多量	2.5Y8/1 灰白	良	南調査区	柱穴19	弥生
72	土器	広口 壺	復元 12.6	残器高 2.2	不明	密 石英中量	5YR5/6 明赤褐	やや 軟	南調査区	柱穴27	弥生
73	土器	鉢	復元 25.0	残器高 3.0	ナデ、ヨコナデ、凹線 文	密 0.5～5mm砂粒中量	10YR6/3 にぶい黄褐	良	南調査区	柱穴27	弥生
74	土器	壺 底部	底径 9.7	残器高 6.3	ヨコナデ、タテハケ、 コピオサエ	密 1～5mm砂粒中量	10YR7/2 にぶい黄橙	良	南調査区	柱穴27	弥生
75	土器	甕	復元 14.0	残器高 6.0	ヨコナデ	密 石英、長石 多量	5YR5/6 明赤褐	やや 軟	南調査区	柱穴36	弥生
76	土器	甕	復元 11.4	残器高 5.5	タテハケ、ヨコナデ	密 石英、長石、黒色砂 粒多量	10YR8/2 浅黄橙	やや 軟	南調査区	柱穴36	弥生
77	土器	鉢	復元 16.2	残器高 7.5	ヨコナデ	石英・長石多量 凹線文	10YR6/3 にぶい赤橙	やや 軟	南調査区	柱穴36	弥生
78	土器	広口 壺	復元 14.0	残器高 11.8	ナデ、ヨコナデ、突帯 文	密 砂粒少量	外 10YR8/2灰白 内 2.5Y7/1灰白 胎土 10Y2/1黒	良	南調査区	柱穴36	弥生
79	土器	甕 底部	底径 5.0	残器高 6.8	タテハケ	密 1～5mm砂粒中量	外 10YR7/4にぶい黄橙 内 2.5Y7/1灰白	良	南調査区	柱穴36	弥生
80	土器	壺 底部	復元底径 9.0	残器高 5.1	タテハケ	密 石英、長石少量	2.5Y7/2 灰黄	良	南調査区	柱穴36	弥生
81	土器	甕	復元 20.0	残器高 5.9	タテハケ、ナデ、ヨコ ナデ	密 石英、砂粒多量	10YR7/1 灰白	良	南調査区	柱穴37	弥生
82	土器	甕	復元 14.0	残器高 5.1	不明	石英、長石、粗粒多量	7.5YR5/6 明褐	やや 軟	南調査区	柱穴32	弥生
83	土器	壺 底部	底径 10.5	残器高 16.0	タテハケ、ミガキ	密 砂粒ほとんど含まず	外 10YR7/4にぶい黄橙 内 10Y8/2灰白	やや 軟	南調査区	柱穴32	弥生
84	石器	石剣	残存長 6.4	幅 3.05					北調査区	暗茶褐色土	弥生
85	石器	石鏃	残存長 2.8						南調査区	柱穴32	弥生
86	石器	石包丁	残存長 6.35	残存幅 3.2	粗い研摩擦痕				南調査区	土坑1	弥生

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	とぼりきゅうあと							
書名	鳥羽離宮跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2007-5							
編著者名	平田 泰							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2007年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とぼりきゅうあと 鳥羽離宮跡 (152次調査)	きょうとしふしみく 京都市伏見区 たけだにしうちほたちょう 竹田西内畑町	26100	1166	34度 57分 18秒	135度 45分 06秒	2007年7月 11日～2007 年8月3日	138㎡	集合住宅 建設工事
とぼいせき 鳥羽遺跡	19番地・34番地		1167-1					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鳥羽遺跡	集落跡	弥生時代	土坑、柱穴	弥生土器、石器		土坑から弥生土器 が一括で出土		
鳥羽離宮跡	離宮跡							

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-5

鳥羽離宮跡

発行日 2007年9月30日

編集
発行
住所 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
〒 602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒 604-0093 TEL 075-256-0961